

■令和8年度音楽研究科博士前期課程入試 実技試験内容及び課題曲

I. 作曲領域の提出作品

4 曲以上（楽曲の編成、種類は問わない）の作品を提出してください。

※ 提出作品は楽譜または CD(-R) や DVD(-R) 等 (USB メモリや SD カード等に記録した映像や音声データでも可) で提出してください。ただし少なくとも 2 作品は楽譜の形で提出してください。楽譜がなく音源や映像のみの作品は、楽曲の構造などを表す図表や指示書、作品についての解説などを提出してください。作品資料提出はコピー (A3 サイズ以下) とし、氏名、題名、制作年を明記、必要があれば補足説明なども付けてください。提出作品は必ず本人の制作物とします。

II. 音楽学領域の研究計画書

4,000 字程度の研究計画を所定の様式で、提出してください。

Ⅲ. 声楽領域実技

- (1) アリアと歌曲の両方によって構成する 10 分以上 15 分以内のプログラムを組み、入学願書の「受験曲目」欄に【①作曲者名、②曲名、③曲ごとの演奏時間】を記入し提出してください。演奏時間には曲間は含みません。実質的な演奏時間が 10 分未満の場合は失格とします。
 - ※ アリアと歌曲の両方を必ず演奏してください。
 - ※ アリアは、オペラ・アリア、オペレッタ・アリア、コンサート・アリア、あるいは宗教曲のアリアとし、原則として原調での演奏とします。
 - ※ 演奏はすべて暗譜でおこなってください。
 - ※ 作曲者を問わず、歌詞は原則として原語とします。
 - ※ 曲目は当日指定する場合があります。
- (2) 受験者は伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。他の実技系領域の試験が同日に行われるので、伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。

Ⅳ. 鍵盤楽器領域（ピアノ）実技

下記の(a) (b) (c)を必ず含むピアノ独奏作品による 40 分以上のプログラムを用意してください。

- (a) バロック時代の任意の作品
 - (b) 古典派（J. Haydn、W. A. Mozart、L. v. Beethoven に限る）の任意の作品
 - (c) ロマン派以降の任意の作品
- ※ 出版されている作品に限ります。内部奏法などの特殊奏法を用いた作品は不可。
 - ※ (a) (b) (c)はそれぞれ複数曲の選択も可。
ただし、入学願書の「受験曲目」欄に記載した順番で演奏してください。
 - ※ 暗譜で演奏してください。試験当日に演奏箇所を指定する場合があります。

Ⅴ. 弦楽器領域実技

<弦楽器領域共通事項>

- (1) 時間の都合により演奏をカットする場合があります。
- (2) 他の実技系領域の試験が同日に行われるので、伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。

○ヴァイオリン

次の 2 曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Sonaten für Violine solo g-moll BWV1001、a-moll BWV1003、C-dur BWV1005

より任意の Fuga を 1 曲。

原典版の使用が望ましい

- (2) 次のグループ(a)～(g)より任意の 1 曲の第 1 楽章。カデンツァを含みます。

伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。

使用版は自由

- (a) L. v. Beethoven: Konzert D-dur Op. 61
- (b) J. Brahms: Konzert D-dur Op. 77
- (c) F. Mendelssohn: Konzert e-moll Op. 64
- (d) P. Tchaikovsky: Konzert D-dur Op. 35
- (e) A. Dvořák: Konzert a-moll Op. 53
- (f) J. Sibelius: Konzert d-moll Op. 47
- (g) B. Bartók: Konzert Nr. 2 Sz. 112

○ヴィオラ

次の2曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Suiten für Violoncello solo BWV1007～1011 より任意の Prélude を1曲。
使用版は自由
- (2) 次のグループ(a)～(c)より任意の1曲の第1楽章。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
 - (a) W. Walton: Konzert 使用版は自由
 - (b) P. Hindemith: “Der Schwanendreher”
 - (c) B. Bartók: Konzert (遺作)

○チェロ

次の2曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Suiten für Violoncello solo Nr. 3 BWV1009、Nr. 4 BWV1010、Nr. 5 BWV1011、Nr. 6 BWV1012 より任意の Prélude を1曲。
使用版は自由
- (2) 次のグループ(a)～(e)より任意の1曲を演奏してください。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
使用版は自由
 - (a) J. Haydn: Konzert D-dur Hob. VIIb: 2 より第1楽章＜カデンツァを含む＞
 - (b) A. Dvořák: Konzert h-moll Op. 104 より第1楽章
 - (c) R. Schumann: Konzert a-moll Op. 129 より第1楽章
 - (d) E. Elgar: Konzert e-moll Op. 85 より第4楽章
 - (e) P. I. Tchaikovsky: Variations on a Rococo Theme Op. 33 全曲

○コントラバス

次の2曲を、いずれもソロチューニングで演奏（暗譜）してください。

- (1) H. Fryba: Suite im alten Stil (A Suite in the Olden Style) für Kontrabass solo
より Prélude 使用版は自由
- (2) 以下の協奏曲の中から1曲を選び、その第1楽章および第2楽章。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
使用版は自由
 - S. Koussevitzky: Konzert fis-moll
 - G. Bottesini: Konzert Nr. 2 h-moll

○ハープ

次の2曲をすべて繰り返しなしで演奏（暗譜）してください。受験の際は本学の楽器を使用してください。

- (1) F. Godefroid: Etude de concert Op. 193 使用版は自由
- (2) C. Salzedo: Variations sur un thème dans le style ancien 使用版は自由
(8番バリエーションの終わりに明記されているカットを行なって演奏すること)

VI. 管・打楽器領域実技

<管・打楽器領域共通事項>

- ※ マリンバの受験者を除くすべての楽器の受験者は、伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。他の実技系領域の試験が同日に行われるので、伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。
- ※ 時間の都合により演奏をカットする場合があります。
- ※ 受験曲目については、フルート、オーボエ、サクソフォーン、パーカッション、マリンバの曲目以外は入学願書に記入する必要はありません。

○フルート

下記の(1)(2)を演奏してください。暗譜の必要はありません。

使用版は自由

- (1) 下記の2曲より1曲を選択し、演奏してください。
 - (a) W. A. Mozart: Concerto for Flute and Orchestra No. 1 in G major K. 313 全楽章
 - (b) W. A. Mozart: Concerto for Flute and Orchestra No. 2 in D major K. 314 全楽章
 - ・カデンツァ付き、カデンツァは任意のもの。
 - ・演奏箇所は当日指定します。
- (2) 自由曲（ただし、協奏曲は除く）
 - ・1800年以降、フルートのために作曲された作品から1曲選択すること。
 - ・7分～8分程度で演奏すること。カットして演奏することも可。
 - ・無伴奏曲も可。

○オーボエ

下記の(1)(2)を演奏してください。暗譜の必要はありません。

使用版は自由

- (1) W. A. Mozart: Concerto in C major K. 314 第1、2楽章<カデンツァ付き>
- (2) 下記の3曲より1曲を選択し、演奏してください。
 - (a) H. Holliger: Sonate für Oboe solo より Schott 版
I Präludium と II Capriccio
 - (b) A. Dorati: 5 pièces pour le hautbois より Boosey & Hawkes 版
第1曲と第5曲
 - (c) G. Silvestrini: 6 études pour le hautbois より Delatour 版または Editions du Hautbois 版
第1曲と第6曲

○クラリネット

下記の2曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

使用版は自由

- (1) W. A. Mozart: Konzert für Klarinette und Orchester K. 622
第1・3楽章はカデンツァなし、第2楽章はカデンツァありで演奏してください。
- (2) I. Stravinsky: Three Pieces for Clarinet Solo

○ファゴット

下記の2曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

使用版は自由

- (1) F. Devienne: Sonata in F Op. 24 No. 3

1. Allegro 2. Largo 3. Rondo Allegretto

- (2) E. Bozza: Récit, Sicilienne et Rondo

○サクソフォーン

下記の課題曲Aと課題曲Bを演奏してください。

(課題曲A) 下記の曲より1曲を選択し、演奏してください。暗譜の必要はありません。

- (1) J. Ibert: Concertino da Camera より第1楽章

A. Leduc 版

- (2) H. Tomasi: Concerto pour Saxophone Alto et Orchestre より

第1楽章の練習番号32の前まで

A. Leduc 版

- (3) I. Dahl: Concerto for Alto Saxophone and Wind Ensemble より第1楽章

Schott 版

(課題曲B) 下記の曲より1曲を選択し、演奏してください。暗譜の必要はありません。演奏箇所は当日指定します。

- (1) A. Waignein: Rhapsody for Alto Saxophone and Orchestra or Piano より

Scherzando 版

任意の2つの楽章

- (2) E. Denisov: Sonate pour Saxophone Alto et Piano 全楽章

A. Leduc 版

- (3) P. Creston: Saxophone Concerto Op. 26 より

G. Schirmer 版

第1楽章と第2楽章、もしくは第2楽章と第3楽章

- (4) E. Larsson: Concerto for Saxophone and String Orchestra Op. 14 より

Gehrmans 版

第1楽章と第2楽章

- (5) L. Robert: Cadenza pour Saxophone mib et Piano

Billaudot 版

- (6) I. Gotkovsky: Concerto pour Saxophone Alto et Orchestre より

Transatlantiques 版

任意の1つの楽章

- (7) P. Bonneau: Capris en Forme de Valse

A. Leduc 版

- (8) 棚田文紀: Mysterious Morning III

Lemoine 版

- (9) L. Berio: Sequenza VII b

Universal 版

- (10) A. Desenclos: Prelude Cadence et Finale pour Saxophone Alto et Piano

A. Leduc 版

○ホルン

下記の曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

R. Strauss: Concerto for Horn and Orchestra No.1 in E flat major, Op. 11

使用版は自由

全楽章を演奏、ただし伴奏部分カットあり。カットの箇所は以下を参照。

- ・第1楽章…冒頭から演奏後、7小節目に入らず25小節目に入り131小節目まで（ピアノは初めの和音を二分音符分伸ばして終わる）演奏してください。
- ・第2楽章…Andante 部分から演奏開始、そのまま第3楽章最後まで演奏してください。

○トランペット

下記の曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。楽器の指定はありません。

J. Haydn: Trumpet Concerto in E flat major Hob. VIIe:1

使用版は自由

○トロンボーン

下記の曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

H. Tomasi: Concerto pour Trombone et Orchestre

A. Leduc 版

○バストロンボーン

下記の曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

J. Williams: Concerto for Tuba and Orchestra

Hal Leonard 版

○ユーフォニアム

下記の2曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

- (1) G. Ph. Telemann: 3 Fantasias for Solo Euphonium より Fantasia No.7 (TWV 40:20) I、II

The Brass Press (a division of Edition BIM)版

- (2) J. Horovitz: Euphonium Concerto 全楽章

Novello 版

○チューバ

下記の曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

J. Koetsier: Concertino Op. 77 for Tuba and String Orchestra

Editions Bim 版

○パーカッション

下記の2曲を演奏してください。

- (1) セットアップを含む楽器編成による任意の楽曲(10分程度、省略可)

- (2) ティンパニによるオーケストラスタディ

G. F. Händel: Der Messias HWV56 より Hallelujah (ピアノ伴奏付き)

ピアノ伴奏譜は Breitkopf 版 (Edition Breitkopf 2419)を使用してください。

・課題(1)の曲目は、入学願書の「受験曲目」欄に記入し、提出してください。

・入学願書の「受験曲目」欄に、使用する楽器(持参する楽器も含む)を記入してください。

・大物打楽器は本学所有のものを使用いただけますが、持参する楽器がある場合は、出願の際に申し出て、搬入・搬出方法について本学と協議してください。

・課題(1)の譜面は、出願書類に同封し、提出してください。

○マリンバ

下記の曲を演奏してください。

マリンバによる、12 分程度の無伴奏独奏曲（省略不可）。暗譜で演奏してください。

（参考例）向井耕平：Prelude and Allegro

A. Viñao: Khan Variations

J. Schwantner: Velocities

R. R. Bennett: After Syrinx II

- ・上記の曲目は、入学願書の「受験曲目」欄に記入し、提出してください。
- ・上記の譜面は、出願書類に同封し、提出してください。
- ・マリンバは本学所有のもの（ヤマハ：YM-5100A）を使用してください。

■令和8年度音楽研究科博士前期課程入学試験問題

西洋音楽史（作曲／声楽／鍵盤楽器／弦楽器／管・打楽器領域）

【試験問題】

I. 次の（１）～（４）からひとつ選び、古典派からロマン派にかけてどのように変遷したか、作曲家と作品名を具体的に挙げながら説明してください。文字数の制限はありません。

- （１）オペラ
- （２）ピアノ・ソナタ
- （３）弦楽四重奏曲
- （４）交響曲

II. 20 世紀以降の西洋音楽について、次の（１）～（４）からひとつ選び、作曲家や作品名を具体的に挙げながら説明してください。文字数の制限はありません。

- （１）新ウィーン楽派
- （２）新古典主義
- （３）偶然性の音楽
- （４）ミニマル・ミュージック

III. 問題文に合うように、語群から正しいものを選んでください。

中世後期にあたる 13 世紀、多声音楽の新たなジャンルとして（１）が誕生した。（１）はフランス語の「言葉」という語に由来し、聖歌の旋律に新たな声部と歌詞を付け加えることで成立した。14 世紀のヴィトリヤ（２）の（１）では、「コロル」と呼ばれる旋律型と、「タレア」と呼ばれるリズム型を用いる（３）の技法が用いられた。同じ 14 世紀、イタリアではマドリガーレやバッラータなどの世俗歌曲が興隆した。中でも、盲目のオルガニストであった（４）は、6 度音から主音に解決する独特な終止形の由来となったことで知られる。なお、この時代の世俗音楽を総称して（５）の音楽と呼ぶ。

16 世紀にドイツで始まった（６）により、ヨーロッパ各地でキリスト教の新勢力が生まれた。そのひとつであるルター派では（７）といって、ドイツ語による単旋律聖歌が作られた。イギリスでは英国国教会が創始され、新たな典礼の形式としてサーヴィスと（８）が整備された。一方で、カトリック教会では（６）に対抗する動きがみられ、一時はポリフォニー音楽に批判の目が向けられたが、（９）によってバランスのとれた対位法の様式が打ち出され、後世の作曲家の模範となった。なお、ルター派の（７）はバロック時代にかけて、オルガンで演奏される前奏曲や、教会（１０）の主題としても用いられるようになる。

バロック時代にイタリアで誕生したオペラは、古代ギリシャ演劇の復活を目指して作られた。初期オペラの代表作であるモンテヴェルディの（１１）では、語りと歌の中間のような旋律と、通奏低音の伴奏による（１２）様式が確立された。オペラはその後、フランスやイギリスでも発展した。フランスではリュリが（１３）を創始し、イギリスでは（１４）が英語によるオペラを書いたが、のちに（１５）によってイタリア・オペラの流行がもたらされた。

1720 年代～80 年代の期間は「（１６）」と呼ばれる。この頃、ヨーロッパの社会体制の変化にともない、音楽文化の担い手が王侯貴族から市民階級へと移り変わっていった。都市部ではパリの「コンセール・スピリチュエル」に代表されるような（１７）が開催され、音楽家が国際的に活躍する場となった。音楽表現においては「分かりやすさ」が求められるようになり、単純な構造の旋律に明快な伴奏がついた（１８）様式が好まれた。その他にも、北ドイツを中心に「疾風怒濤」運動の流れをくむ多感様式も流行したが、これはフリードリヒ大王に仕えた（１９）などの作品で知られる。管弦楽の分野では、シュターミツやカンナビヒなどの（２０）楽派が、劇的な強弱法を用いた交響曲を生み出した。

語群（解答欄に記入するのは記号のみで構いません）

あ	オペラ・セリア	て	《オルフェオ》
い	トレチェント	と	モテット
う	エルガー	な	C. P. E. バッハ
え	レチタティーヴォ	に	コンクール
お	公開演奏会	ぬ	宗教改革
か	マシヨー	ね	トラジェディ・リリック
き	ヴィヴァルディ	の	ポピュラー
く	アイソリズム	は	ランディーニ
け	楽譜出版	ひ	グルック
こ	ロマン派	ふ	前古典派
さ	ヘンデル	へ	通作ミサ
し	コラール	ほ	バレストリーナ
す	《リナルド》	ま	オルガヌム
せ	ギャラント	み	レクイエム
そ	カンタータ	む	マンハイム
た	アンセム	め	コンチェルト
ち	J. S. バッハ	も	パーセル
つ	オラトリオ	や	国民

【出題の意図】

大学院での研究に必要な音楽史の基礎的知識を備えているかを問う。音楽史におけるさまざまな様式を認識し、それを歴史的な脈絡で捉えるための知識が必要とされる。

【解答】

- I（記述式問題のため、省略）
- II（記述式問題のため、省略）
- III （1）と （2）か （3）く （4）は （5）い （6）ぬ （7）し （8）た （9）ほ
（10）そ （11）て （12）え （13）ね （14）も （15）さ （16）ふ （17）お
（18）せ （19）な （20）む

音楽学（音楽学領域）

【試験問題】

- I. 別紙の文章を読み、あなたの研究の長所と短所を明示した上で、あなたが研究をすすめるときにどのようなことを心がけますか。自由に論じてください。なお、文字数の制限はありません。

【出典】

・岸磨貴子「アートベース・リサーチへのいざないー訳者あとがき」パトリシア・リーヴィー『研究法がアートと出会うとき』（福村出版、2025 年）

- II. 次の（1）～（5）からひとつ選び、論じてください。なお、文字数の制限はありません。
- （1） 西洋音楽における演奏史
 - （2） 音楽資料としての「旅行記」
 - （3） 日本の音楽文化におけるヤマハ
 - （4） 近代日本の音楽文化にみる「官」と「民」
 - （5） ポピュラー音楽研究における作品論の問題点

【出題の意図】

大学院における音楽学研究に必要な基礎的知識および理解力、資料読解力、論述力を備えているかを問う。

【解答】（記述式問題のため、省略）

外国語〔英語・独語・仏語・伊語〕（作曲／声楽／鍵盤楽器／弦楽器／管・打楽器領域）

【出題の意図】

大学院での研究に必要な外国語の文献を理解する能力を備えているかを問う。外国語の文章の語句、節、文レベルの理解だけでなく、段落全体の論旨の展開を把握する読解力が必要とされる。また、解答に際しては原文の理解を正確な日本語で訳出することが求められる。

【出典】

- 〔英語〕・Juslin, Patrick N., and Renee Timmers. “Expression and communication of emotion in music performance.” In *Handbook of Music and Emotion: Theory, Research, Applications*, edited by Patrik N. Juslin and John A. Sloboda. Oxford: Oxford University Press, 2010.
- ・McClary, Susan. “The blasphemy of talking politics during Bach Year.” in *Music and Society: The Politics of Composition, Performance and Reception*, edited by Richard Leppert and Susan McClary. Cambridge: Cambridge University Press, 1987.
- 〔独語〕・Erich Kästner: *Der Kleine Grenzverkehr*. Zürich: Atrium-Verlag 2017.
- 〔仏語〕・Syreishchikova-Horn. Anastasiia, «Hector Berlioz et l’espace médiatique russe au XIX^e siècle», *Revue musicale OICRM*, Volume 7, numéro 1, 2020.
- 〔伊語〕・P. Olivares, M.S. Seguí, E. Alcalaz, S. Frescura, M. Minetti, *L’italiano per l’Opera*, 2021, Alma Edizioni
- ・Arianna Ghilardotti, *Le vite dei grandi musicisti*, 2023, 24 ORE Cultura

外国語〔英語〕（音楽学領域）

【出題の意図】

大学院における音楽学研究に必要な、語学的能力を備えているかを問う。

【出典】

- 〔英語〕・Brandi A. Neal. “Hip-Hop History.” In: *Notes*, September 2025, Vol.82, No.1
- ・Kerim Yasar. *Electrified Voices: How the Telephone, Phonograph, and Radio Shaped Modern Japan, 1868-1945*. Columbia University Press, 2018.

※外国語の試験問題は、本学管理棟 3 階入試課において閲覧できます。

（閲覧時間 平日午前 9 時から午後 5 時まで）